

学校経営推進費 評価報告書（最終）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	グローバル人材の育成
評価指標	・ TOEFL iBT等のスコア、外部機関の客観的学力診断テストによる学力（スコア）の向上 ・ 国公立大学・国際関係系学部設置大学進学者数の増加 ・ 海外大学進学者数の増加
計画名	21世紀型の新しい学校！計画 volume. 3

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2、グローバル時代に対応する教育システムの構築 （2）ロジカル・クリティカルシンキングを理解・実践する。 ア、スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。 イ、開発したツールを使用するための授業方法として、ディベートやプレゼンテーションを行う。 （4）国際科（グローバル科）開設に向けて、英語教育の充実を図る。 ア、TOEFL iBT以外の外部評価として、GTECを導入する。 イ、「グローバル科設置準備委員会」を中心に、箕面高校独自のカリキュラム等を構築する。
事業目標	○平成28年度に改編される「国際科（グローバル科）」設置を強力に推し進め、改編を成功させるために、「21世紀型の新しい学校」を実現が必須となる。方法論としては以下のとおりである。 ①自習室・進路指導室の機能の向上、 ②グローバル科設置に伴う職員室の大規模改修とそれに伴う職員室機能の定義の変更、 ③教員用ICT機器の充実と研修体制の確立。 これにより、現在よりインタラクティブで機能的な授業が展開され、上記評価指標の向上が着実に進む。
整備した 設備・物品	各種プロジェクター（教室用単焦点・視聴覚室用吊下げ・体育館用）、無線ルーター（職員室用）、教材作成用iMac、ADFドキュメントスキャナ、自習室用机椅子セット、職員室用机椅子セット、グローバル科設置に伴う研修・旅費、広報資材（ホームページ・パンフレットなど）
取組みの 主担・実施者	校長・教頭・首席を中心にプロジェクトチームを立ち上げる。 ※「骨太英語」のプロジェクトチームと共助関係を作り、相互のプロジェクトが密接に関係しながら、発展するように関係を調整・整理しながら進める。
本年度の 取組内容	①自習室の活用が定着し、そこで力をつけた生徒が希望進路を獲得することができた。運営も安定し、より生徒のニーズに応えるための方法を模索している。進路指導室主導で行ってきた模試の分析会も、教科全体で受け止めようとする流れができてきた。教科での議論をより推し進めていくための素地ができていく。 ②教科を超えて議論することが活発になってきた。その成果の一つとして、グローバル科における総合的な学習の時間について、年間を通したカリキュラムが完成し、次の学年に引き継ぐことができた。 ③校務分掌内に、情報Gを置き、校内のICT機器の把握をすることができた。そのことで、今までは授業担当者が調達していた部分を、組織として対応することで、ICTを利用した授業が増加した。
成果の検証方法 と評価指標	○国公立大学への現役合格者を平成25年度26名→平成26年度46名（目標30名）→平成29年度55名に増やす。 ○難関私立大学の現役合格者を平成25年度180名→平成26年度241名（目標200名）→平成29年度300名に増やす。 ○海外大学進学について、最難関については5名、難関については15名を確保する。 ○自習室の利用者1日平均15名（9月）→30名に増やす。
自己評価	○国公立大学・難関私立大学・国際関係系学部設置大学進学者数の増加 ・ 国公立大学現役合格者数 H26（46名）→H27（38名）→H28（39名）→H29（48名）（△） ・ 難関私立大学現役合格者数 H26（241名）→H27（260名）→H28（319名）→H29（210名）（△） ・ 国際関係系学部設置大学進学者数 H26（2名）→H27（2名）→H28（16名）→H29（9名）（△） ○海外大学進学者数の増加 H26（2名）→H27（1名）→H28（5名）→H29（5名）（○） ○自習室の利用者数1日平均30名（9月）（○） ○TOEFL iBT等のスコア、外部機関の客観的学力診断テストによる学力（スコア）の向上【H28→H29】 ・ 60over【5名→1名】、40over【20名→20名】（△） ・ GTEC 1・2年全員受検(7月) Basic(660)で520over【47名→60名】Advanced(810)で610over【14名→10名】、520over【74名→60名】（○）
事業のまとめ	○国公立大学の進学者数は、それほど伸びていないものの、海外大学への進学者が一定数出てきたことで、生徒の希望進路をかなえさせようという、当たり前の意識を職員集団に再確認させることができ、より良い授業づくりのため学習していきたいという若手の教員が増加した。総合的な学習の時間の授業や一般授業における、ロジカル・クリティカルシンキングの実践は年々増加し、新転任の教員への継承が課題である。 ○平成30年度行事予定に、GTEC（1・2年全員受検、年2回）を盛り込むことができ英語教育の充実に向けて着実に前進している。骨太の英語力養成授業がH29年度で終了（SETも退職）しているが、そこで培われた教授方法などは、校内に引き継がれており、今後生徒とともに学ぶ姿勢を取りながら、より効果的な授業実践を研究していくことが課題である。 ○平成30年度末に、本校で初めてのグローバル科卒業生を送り出す。その進学実績等がこの事業のまとめにふさわしい数字になるよう、継続してチャレンジする姿勢を前面に押し出して、学校経営を展開していく。